

主体的に学習に取り組む姿

校長 佐伯 孝司

つくし学級の児童たちと公園に出掛けました。春の公園では、様々な動植物を観察することができ、児童の興味・関心も高まります。取り組む学習課題ごとに、3組に分かれて活動を始めました。

池のほとりでは、数名の児童が少しずつ離れた所を選んで、じっと棒を持ったまま池の中をのぞいています。棒には糸が巻き付けられ、その糸の先端にはエサが付いています。糸に付いたエサを池の中に沈めています。一人が、嬉しそうに声をあげました。「あ、ハサミが見えている」近寄ってみると、大きな石の下から、ザリガニのハサミが見えてきました。事前の学習で調べていたザリガニを間近でよく観察したいと、他の児童もその様子を興味津々で見えています。「静かにして」「わあ、エサをつかんでいるみたい」手に持った棒を慎重にゆっくりと上げていきます。しかし、ザリガニは大きな石の下に再び潜っていきました。「もう少し待たなければだめなのかな」「もっとゆっくりやってみよう」他の児童に、「静かにしてね」と協力を求めます。しかし、同じことの繰り返しになってしまいます。

すると、静かにすることを求められていた友達が「僕の糸の方が、いっぱいエサがついているよ」と声を掛けました。「おお、この方がいいね。じゃあ、そのエサで釣り上げてよ。ザリガニが持ち上がったら、僕が網ですくい獲る」「よし」2人が協力し、試行錯誤しながら、粘り強くザリガニとの対面を待ち望んでいました。

私がこの児童たちの様子を見ていたのはここまでです。ザリガニとの対面は果たせなかったことを後で聞きました。活動を振り返り、もう一度みんなでよく調べたり考えたりして、後日公園での活動に再挑戦することになっています。

このつくし学級の児童の姿に、私たちが今年度大切にしていきたい授業づくりのポイントがあると考えています。いつも体験的に学ぶ活動ができるわけではありません。教室の中でも、他の教科等の学習でも、同じように大切にしていきたいことです。

児童が、自分の（自分たちの）興味・関心を基に学習課題を設定し、どのようにしたら解決できるかを考え、活動計画を立てる。とても大事な学習活動です。学習課題の解決を図る活動にすすんで取り組む。結果を受け止め、考察する。うまくいかなかったところを解決するよう再び考える。これも、大事な学習活動です。目標に向かって粘り強く学習に取り組む態度。学習目標の達成状況はどうか、何がよかったか、さらに何が必要なのかということを考えながら試行錯誤して取り組む態度。児童に身に付けてほしい学習態度です。その過程で、友達と協働的に取り組み、自分のよさや友達のよさを感じながら学んでいく。協働的な活動により、目標に一層近付いていく体験。友達に認められたり、友達に感謝されたりする体験。これもまた、大事な学習活動です。

私たち教員は、これらの学習の様子を総合的に捉えて「主体的に学習に取り組む姿」と考えています。もちろん、このような学習活動を成立させるには、基礎的・基本的な学習内容の理解や技能の定着も大切です。このような側面からも、児童の学習状況に合うように指導を工夫していきたいと思えます。

主体的に活動に取り組む児童の姿が見られるよう、楽しく充実した授業づくりに向けて、本校の教員こそ、協働しながら試行錯誤していきます。